

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年2月21日

【評価実施概要】

事業所番号	3270400694		
法人名	社会福祉法人 壽光会		
事業所名	グループホーム湖水苑		
所在地 (電話番号)	出雲市湖陵町差海318-1 (電話) 0853-43-8955		
評価機関名	財団法人 出雲市ひらた福祉公社		
所在地	島根県出雲市平田町2112-1 平田福祉館2階		
訪問調査日	平成21年2月16日	評価確定日	平成21年2月21日

【情報提供票より】(21年 2月13日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 13 年 4 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤 13 人, 非常勤 3 人, 常勤換算	10.3 人

(2) 建物概要

建物形態	併設	新築
建物構造	木造	
	1階建ての	1階 ~ 0階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	実費 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	300 円	昼食 600 円
	夕食	550 円	おやつ 50 円
	または1日当たり 0 円		

(4) 利用者の概要(2月13日現在)

利用者人数	16 名	男性 4 名	女性 12 名
要介護1	0 名	要介護2	5 名
要介護3	7 名	要介護4	4 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 86.5 歳	最低 79 歳	最高 97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	児玉医院、県立中央病院、出雲市民病院、えのもと歯科
---------	---------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

四季折々の表情を見せる神西湖の湖畔に位置するこのホームは、母体の特別養護老人ホームに併設する形で、平成13年に開設され、その後、ユニット増設を行っている。ホームの「認知症であっても、人としての尊重や・・・」という方針の基、利用者を第一に考えたケアが実践されており、利用者それぞれが、思い思いに暮らしている場面が多く確認できたとともに、ホームに漂う雰囲気、前回調査時よりもより明るくなったと感じさせるとともに、家庭的かつ落ち着き感というものも感じさせた。職員は、日々「質の向上を目指したケアの実践」を念頭に従事しており、利用者個々の意欲や希望に応えるなど、それぞれの対応を行っている事をはじめ、職員個々のスキルアップも含め、さらに質の高いホーム作りを行おうとする姿勢が窺い取れた。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回改善を求められた項目については、改善に向けての積極的な対応がなされており、加えて、指摘がなかった項目に関しても、自己評価や外部評価を通して、より利用者本位のサービス提供、より良い質の確保を目指した取り組みがなされており、その成果も窺い知ることができる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者、職員共に評価の意義を十分に理解しており、全職員で自己評価を行い、より利用者本位のサービス提供を目指している。そして評価を基とし、さらにホームの質の向上に取り組もうとする姿勢が窺えた。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は2ヶ月に一度定期的開催され、ホームの運営状況等が報告され、またサービスの提供等に関して協議・検討がなされている。会議録はファイリングし全職員への周知が図られ、必要に応じカンファレンスでも取り上げ、ホームの運営やサービス改善に生かす取り組みがなされている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>意見箱の設置や第三者委員の設置など、意見を反映させようとする姿勢が見られる。また、家族来訪時には時間を設けるなど、より多くの意見を聴取しようとする取り組みがなされている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>母体の特別養護老人ホームと共同でのイベント開催をはじめ、地域の催し物や行事への参加等、地域住民と交流することに努めている。地域住民がホームに立ち寄り、差し入れをする姿が日常的に見られたり、利用者の安全面への協力を依頼するなど、地域とともに事業展開されている。今後も、地区老人会への参加、地元小学校等との交流会、地域への参加等、より密に地域と連携を図ろうとする積極的な姿勢がみられる。</p>

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人として、地域密着を含めた理念が定められており、ホームもその理念に沿い運営を行っている。その結果、地域との関わりも強く、地域に根付いたホーム作りがなされている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム内に明示されており、スタッフミーティングの際に再確認するなど、共有化に向けた取り組みが行われているとともに、理念の具現化に向けたケア提供体制が構築されている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の夏祭りや、行事への参加、交流会、ホームを含めた法人主催のイベント開催など、地域との付き合いを重要視し、より地域に密着したサービス提供を行うよう、積極的に取り組んでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者、管理者、職員ともに、評価の意義を理解しており、全職員で自己評価を行い、協議・検討を行っている。より利用者本位の質の高いサービス提供を目指しつつ、前回の外部評価で指摘があった事項に関しては、改善に向けて積極的な取り組みがなされている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1度定期的開催され、ホームの運営状況等が報告され、またサービスの提供等に関して協議・検討がなされている。委員会から出された意見は、必要に応じて会議で取り上げ、ホームの運営、サービス改善に生かす取り組みがなされている。		

島根県 グループホーム湖水苑

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市役所担当者との協議する機会を多く持つなど、市町村との連携についても図られている。その結果、気軽に相談できる関係が構築され、ホームとしても市役所を活用している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族の来訪時や電話の他に、定期的にホーム便り等を発行し、日々の暮らしぶりや利用者の状態を家族等へ報告している。また、より普段の生活を分かりやすくするため、写真を掲示するなどして、それぞれの状況に合わせた報告がなされている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や第三者委員の設置など、意見を反映させようとする姿勢が見られる。また、家族来訪時には時間を設けるなど、より多くの意見を聴取しようとする取り組みがなされている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人として複数事業所を運営しており、定期的な異動は実施されているが、グループホームの特性の把握がなされ、ホームに関する異動は最小限に抑えるなど、配慮されている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月行われている法人内研修への参加をはじめ、出雲市の連絡会で行われる研修への参加など取り組まれている。ただ、人員配置の関係で、思うような研修参加ができない状況であり、人材確保の点からも、法人全体で再検討いただくよう期待する。	○	より積極的な研修参加と、内部での復命研修等の開催を増やすなどし、参加者が得た知識や技術を、全職員で共有し日々のケアに生かせるよう、加えて、OJTへの取り組みなど、更なる体制整備と強化を期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	圏域の連絡会に加入し、情報を得ているとともに、独自でグループホームの連絡会を構築、連携を図り、情報交換の機会を作ることにより新たな支援方法を実践するなど、ホームの質の向上に向けた積極的な取り組みがなされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	職員による家庭訪問やサービス利用時の訪問で、顔なじみの関係を作っているとともに、ホームの見学やお試し利用など、馴染みながらサービスを利用できるよう配慮されている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々の生活の中で、利用者を尊重するように全職員が意識統一を図り、利用者主体のゆっくりとした時間、穏やかで暖かい生活が送れるよう、ケア提供がなされている。 また、訪問日のケアや職員のヒアリングでもそのことが窺えた。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの思いや望まれる生活を聴き、意向に添うように努め、利用者本人の意向把握が困難な場合には、あくまで“利用者本位”に主眼を置き、家族から話を聞いたり、日々の生活の中での利用者の行動や言動を観察することで、意向を把握しそれに添うよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	計画は、本人の生活歴や趣味等の把握がなされ、それを基に担当職員が原案を作成し、職員全員で話し合わせられ作成されている。また、随時本人や家族等の要望を聞き、担当者会議、カンファレンス、モニタリング等を行い、それを職員間で共有し介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状況に変化があれば、見直しが行われていることをはじめ、モニタリング、カンファレンスは毎月行われているなど、取り組まれている。ただ、計画期間が長く設定されている利用者も一部あり、より現状に即した計画作成が望まれる。	○	ケアマネジメント過程のフローチャートを作成するなどし、利用者の状態に合ったケアが介護計画に基づき提供できるよう、月毎のモニタリング(評価・検証)と、少なくとも3ヶ月毎の見直しは必要である。利用者の自立支援を目的とした介護計画策定に向けての取り組みが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	法人で複数の事業所を運営していることもあり、これらの事業所も活用しながら支援されている。また、受診の付き添いなども、本人、家族の状況等ふまへ、柔軟な対応がなされている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前の主治医をそのままかかりつけ医とし対応している。利用者全員が、隣接する医院を主治医としており、通常受診をはじめ、往診対応、緊急対応など、利用者の意に沿う支援がなされている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期のケアについては、入居時に十分な説明が行われたうえで、本人及び家族の希望を尊重し、随時家族と十分な協議を行ない決定している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個々の生活歴や性格の把握がなされ、それぞれを尊重した声掛け等がなされている。また、記録等の個人情報についてもしっかりと管理され、損ねることがないよう配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の意向が十分に把握され、一人ひとりのペースに合わせた利用者主体のケア提供がみられた。職員のヒヤリングからも、職員の都合ではなく利用者のペースに合わせたケアのあり方、柔軟な対応がうかがえた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員も入居者ともに食卓を囲み、和やかな雰囲気です事をを行うなど、楽しむことができる支援がなされている。また、準備や後片付けも入居者とともにに行い、支援されている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴や一日おき等、本人の希望の合わせ対応されているが、入浴可能な時間帯については、職員の都合で決められているところがある。	○	体制の問題は考えられるが、一般家庭を考えた時、夜間の入浴導入や、入浴回数等を再検討し、改善が望まれる。夏季のシャワー浴も含め、一度には困難でも出来る範囲からの取り組み、より良い入浴の提供が望まれる。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴を把握し、食事準備や接待など、個々の力を発揮できるよう力を見出している。また、同法人が運営する他事業所への外出や、遠くへの外出等、楽しみごと、気晴らしの支援もなされている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の意向を踏まえたドライブ外出、近所への散歩等をはじめ、季節に応じた外出支援も実施されており、外出の機会が多い。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中玄関が施錠されることはなく、入居者、家族等とも自由に出入りができる。また、外出傾向者など入居者個々の生活パターンを把握し、安全面での配慮を行っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	母体の特養とともに避難訓練を行うとともに、地域への協力依頼もされている。また救急時の対応も、定期的に講習を受け、対応ができるよう取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量は個々にチェックし把握している。利用者それぞれのカロリー制限や咀嚼能力に合わせ柔軟に対応し、また、栄養バランスについても、同法人内の栄養士よりアドバイスを受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には、季節ごとの花が飾られるなどし、季節感を感じることができるとともに、使い込まれたテーブルや和室には炬燵を置くなど、家庭的な雰囲気を味わうことができる空間となっている。空気のとどみや光量の調整、音量にも配慮されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に使用していたタンスや棚の持ち込みをはじめ、床面の変更など、それぞれの希望や状況に合わせた居室作りがなされている。ただ、入居者間での差があることは否めない。	○	居室は、利用者がホームで生活していく上での最も大切な空間。利用者によっては様々な事情も考えられるが、家族にも働きかけ、馴染みの品や使用していた物、家庭家具や生活用品が居室にあることで、利用者が落ち着け、「ここが自分の居場所」と感ずることができる、温かい家庭的な雰囲気を持った居室作りを期待したい。